

WTBA 憲章及び競技規定集（抜粋）

1 憲章

1.4 加 盟

1.4.8 トーナメントに関する紛争解決（参加資格を除く）

- a) WTBAまたはゾーン主催のトーナメントに関しては、意見の相違は4章にあるように解決されるものとし、ジュリーオブアピールがすべての最終決定を下すものとする
- b) WTBAまたはゾーン公認のトーナメントに関しては、意見の相違は3章にあるように、WTBA幹部会がすべての最終決定を下すものとする

1.4.9 参加資格問題およびトーナメントの決定に起因しないその他の意見の相違

- a) そのような意見の相違はすべてWTBA会長に書面で提訴を行うことにより解決される
- b) 更に提訴の希望があるときは、会長の決定を受け取ってから30日以内にWTBA幹部会に書面で提出するものとする
- c) 更に提訴の希望があるときは、WTBA幹部会の決定を受け取ってから30日以内にFIQ幹部会に最終決定を求めて書面で提出するものとする
- d) 上記の最終決定機関からの更なる提訴は認められず、その後個人的な訴訟を起こす権利はない

2 一般競技規定集

2.1 ゲームの定義

- 2.1.1 テンピンボウリングのゲームは10フレームからなる。競技者は、ストライクが記録されない限り、初めの9フレームは各フレーム2球ずつ投球する。第10フレームでは、競技者はストライクかスペアが記

録された場合には3球投球する。すべてのフレームは、各競技者が決められた順序で投球して完了しなければならない。

- 2.1.2 ストライクが記録された場合を除いて、競技者の最初の投球によって倒されたピンの数はそのフレームの左上隅にある小窓の中に記入し、競技者の2回目の投球によって倒されたピンの数は右上の隅に記入する。そのフレームの2回目の投球によって残っているピンが1本も倒されなかった場合はスコアシートには(-)を記入する。1フレームの2回の投球の合計はすぐに記録することとする。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
×	×	×	7	2	(8)	/	F	9	×
30	57	76	85	95	104	124	143	152	180

- 2.1.3 あるフレームの最初の投球で1セットのピンがすべて倒されたとき、ストライクとなる。これはストライクが出たフレームの左上の小窓に(×)と書いて記す。1つのストライクのカウントは、10点にその競技者の次の2回の投球で倒されたピンの数を加えた数とする。
- 2.1.4 2回の連続したストライクをダブルという。1回目のストライクのカウントは、20点に2回目のストライクの後の最初の投球で倒されたピンの数を加えた数とする。
- 2.1.5 3回の連続したストライクをトリプルという。1回目のストライクのカウントは30点である。最高得点300点を出すためには、競技者は12回連続でストライクを出さなければならない。
- 2.1.6 最初の投球の後に倒れずに残ったピンが、そのフレームの2回目の投球で倒された場合にスペアが記録される。これはそのフレームの右上の隅に(/)と書いて記す。スペアのカウントは、10点にその競技者の次の投球で倒されたピンの数を加えた数とする。
- 2.1.7 競技者が、1つのフレームで2回投球し、10本のピンすべてを倒すことができなかったとき、1回目の投球で倒せずに残ったピンがスプリットを構成していないならば、これをオープンフレームと呼ぶ。
- 2.1.8 スプリット(通常はピンの数の周りを で囲んで記録する)とは、1投目の後ヘッドピンが倒れ、さらに次のことが起こった場合に、倒れずに残ったピンの配置のことをいう：

- a) 2本以上の立っているピンの間の少なくとも1本のピンが倒れている；例えば、7番 - 9番や3番 - 10番のように。
- b) 2本以上の倒れずに立っているピンのすぐ前の、少なくとも1本のピンが倒れている；例えば、5番 - 6番のように。

2.2 競技形式

2.2.1 デュアルレーンスタイル

- a) ゲームは隣り合った2つのレーン（1つのペア）で行われるものとする。
- b) 競技中のチーム、トリオ、ダブルスのメンバー、シングルスに参加者たちのメンバーは、連続してまた決められた順序で一方のレーンで1フレーム投球し、次のフレームはレーンを変えてもう一方のレーンを使い、そのペアの各々のレーンで5フレームを投球する。

2.2.2 シングルレーンスタイル

- a) ゲームは1つのレーンで行われる。
- b) 競技中のチーム、トリオ、ダブルスのメンバー、シングルの個人の参加者は、連続してまた決められた順序でひとつのレーンで1フレーム投球し、そのレーンで10フレームを投球して終わる。

2.2.3 個々のトーナメントの規定集は、そのトーナメントがどちらの競技形式を適用するかを特定するものとする。

2.3 適正なピンフォール

2.3.1 適正な投球は、ボールが競技者の手を離れ、ファウルラインを越えて競技域内に入ったとき成立する。

2.3.2 どの投球もデッドボールが宣告されない限り成立する。

2.3.3 投球は完全に手によって行なわれなければならない。

2.3.4 投球時に分離したり、投球中に可動部となるいかなる装置もボールに組み込まれていたり、装着されていないと認められない。

2.3.5 競技者は、切断やその他の原因で失われた手や手の主要な部分の替わ

りとなる場合には、グリップや投球を補助する特別な装置を使用することができる。

2.3.6 適正な投球の結果によるピン 競技者の得点となり、デッドウッドと呼ばれ、次の投球前に払われなければならないピン としては次のものがある：

- a) ボールまたは他のピンによって倒されあるいはピンデッキから外れたピン
- b) サイド部分またはリアクッションから跳ね返ったピンによって倒されあるいはピンデッキから外れたピン
- c) スウィープ・バーがデッドウッドをピンデッキから払う前、ピンデッキ上に静止しているときにスウィープ・バーから跳ね返ったピンによって倒され、あるいはピンデッキから外れたピン
- d) キックバックやサイド部分にもたれかかり、接触しているピン

2.4 不適正なピンフォール

2.4.1 以下のいずれかが起こった場合は、投球は成立するが、その結果としてのピンフォールは数えない

- a) ボールが、ピンに届く前にレーンを外れる
- b) ボールがリアクッションから跳ね返る
- c) ピンがピン整備員の体、腕、足に接触した後跳ね返る
- d) 機械式ピンセッターがピンに接触する
- e) デッドウッドが取り除かれている最中に倒されたピン
- f) ピン整備員によって倒されたピン
- g) 競技者がファウルを犯す
- h) デッドウッドがレーン上またはガターに残ったまま投球が行われ、ボールがレーン面を外れる前にそのようなデッドウッドに触れる

2.4.2 不適正なピンフォールが生じ、かつ競技者がそのフレームでさらに投球する権利があるときは、その不適正に倒された1本又は複数のピンは、それらが元々あった位置に置き直されるものとする。

2.5 その他のピンアクション

2.5.1 フルセット又はスペアメイクの投球のとき、1本あるいは数本のピンの

配置が不整列であるが脱落してはいないことが投球直後に発見されたときは、その投球と投球の結果のピンフォールは成立する。配置が正しいかどうかを決定するのは各競技者の責任とする。競技者は、投球する前に不整列に配置された1本又は数本のピンをリセットするよう要求するものとする。そうしなかった場合は、その配置は認められたものとみなす。

- 2.5.2 投球後、倒れずに残ったピンの位置を変えることはできない。すなわち、機械式ピンセッターによって動かされあるいは不整列に配置されたピンは、動かされあるいは不整列に配置された位置のまま置かれるものとし、手を使って正しい位置に戻してはならない。
- 2.5.3 跳ね返ってレーンに立ったピンは、倒されなかったものとみなされる。
- 2.5.4 ピンは1本たりとも目こぼしをすることはできない。適正な投球の結果として実際に倒されるか、あるいは競技レーン面から完全に外れたピンのみがカウントされる。
- 2.5.5 ゲーム中ピンが壊れたり、そうでなくともひどく損傷を受けたりした場合は、そのピンは重量と条件が使用中のセットと近い別のピンと直ちに交換するものとする。トーナメント役員が、ピンを交換すべきかどうかを決定する。

2.6 デッドボール

- 2.6.1 以下のいずれかが生じたとき、ボールはデッドであると宣せられる
 - a) 投球直後に(かつ同じレーンでの次の投球の前に)、ピンのセットの中に1本又は数本の脱落があるとの指摘がなされたとき
 - b) ボールがピンに届く前にピン整備員が立っているピンを動かす
 - c) 倒れたピンがまだ転がっている間に、ピン整備員がそれを動かしたり止めたりする。
 - d) 競技者が間違ったレーンで又は間違った順番で投げる。あるいは、1対のレーンに配置された各チームの1人の競技者が間違ったレーンで投げる
 - e) 投球動作中投球が完了する前に、競技者が他の競技者、観客、動いている物体、またはピンセッターによって物理的に妨害を受ける。そのような場合に、競技者は結果としてのピンフォールを受け入れるかデッドボールの宣告を受けるか選択権をもつものとする。

- f) 競技者が投球するとき、ボールがピンに届く前にピンが動かされたり倒されたりする
- g) 投球されたボールが競技に無関係な障害物と接触する

2.6.2 デッドボールが宣告されると、その投球は不成立となる。デッドボールが生じた時に倒れずに残っていたピンは再配置され、競技者は再投球を許される。

2.7 間違っただレーンでの投球

2.7.1 1人の競技者が間違っただレーンで投球したときは、デッドボールが宣告され、その1人あるいは複数の競技者は正しいレーンで再投球するものとする

2.7.2 1対のレーンに配置された各チームの1人の競技者が間違っただレーンで投球した場合はデッドボールが宣告され、その1人または複数の競技者は正しいレーンで再投球するものとする。

2.7.3 同じチームの2人以上の競技者が間違っただレーンで順に投球した場合は、そのゲームは調整せずにそのまま完了させる。その後のゲームはいずれも正しくスケジュールされたレーンでスタートするものとする。

2.8 ファウルの定義

2.8.1 ファウルは、投球中又は投球後に競技者の身体がファウルラインに掛かるかあるいはそれを越えてレーン、設備、建物のどこかに触れたとき生じる。

2.8.2 ボールは投球後、同じ競技者又は別の競技者がアプローチ上で次の投球をするための位置に付くまでインプレーとする。

2.8.3 競技者がファウルの宣告を受けることによって利益を得るために故意にファウルを犯したときは、その競技者はその投球に対しては0点とし、そのフレームのそれ以降の投球を許されない。

2.8.4 ファウルが記録されたときその投球は成立するが、競技者はその投球によって倒されたいかなるピンも点数として与えられない。ファウルを犯した競技者にそのフレームで追加投球の権利があるときには、ファウルが起こったときにボールによって倒されたピンは再配置されなければ

ならない。

- 2.8.5 以下の者が明らかであると言う場合は、ファウル判定機やファウル審判員がファウルをコールしなくても、ファウルが宣告され、記録されるものとする
- a) 双方のチームキャプテン又は相手方の1人または複数の競技者
 - b) 公式スコアラー
 - c) トーナメント役員
- 2.8.6 ファウルが宣告されたとき、次の場合を除いて提訴は許されない
- a) 自動ファウル判定機が正しく働いていないことが証明される
 - b) 競技者がファウルを犯していないという証拠の優越がある

2.9 暫定球

- 2.9.1 ファウル、適正なピンフォール、デッドボールに関する抗議が起こされ、トーナメント役員によっては解決できないときは、暫定球又は暫定フレームが競技者によって投球されるものとする
- 2.9.2 いずれかのフレームにおける競技者の第一投に関して、または第10フレームの一投目のストライクの後の第二投に関して意見の相違が起こったときは
- a) その意見の相違がその競技者がファウルを犯したかどうかに関するものであるときは、その競技者はそのフレームを投げ終えてからフルセットのピンで暫定球を一球投げるものとする
 - b) その意見の相違が不適正なピンフォールの申し立てに関するものであるときは、その競技者はそのフレームを投げ終えてから、問題となっている1本または複数のピンが倒れていなかったら残っていたであろうピンの配置で暫定球を一球投げるものとする
 - c) その意見の相違がデッドボールが宣告されるべきだったかどうかに関するものであるときは、その競技者はそのフレームを投げ終えてから暫定フレームを1フレーム投げるものとする
- 2.9.3 スペア狙いの投球または第10フレームの第3投に関して意見の相違が起こったときは、その意見の相違がデッドボールが宣告されるべきであったかどうかに関するものであるとき以外は暫定球は必要ない。デッドボールの宣告に関する意見の相違の場合は、議論の対象となっている

ボールが投げられるとき倒れずに残っていたのと同じピンの配置で暫定球が1球投げられるものとする。

2.10 ボウリングボール、表面の加工

2.10.1 ボウリングボールの制限のある大会(例えば6ボール制限大会)では、手によるボウリングボール表面の調整は、それが指定された場所で行われ、かつその調整手順がその競技者の次の投球順を遅らせるのでなければ認められる。薬品の使用はWTBAウェブサイト：www.worldtenpinbowling.comにある「使用可能なリスト」に載っているものでなければならない。これらの全製品の最新のリストが「承認競技会で使用可能」の章に載っているものを含めWTBAウェブサイトで見ることが出来る。「固形物や研磨剤を含む製品」の章や「常に使用できない」章に載っているものを使用することは出来ない。何らかの調整をした後はボールはきれいに拭わなければならない。

2.10.2 ボウリングボールの表面を加工することは、2.10.1に書かれたことを除き、指定された場所において、公式練習中、競技ラウンドの直前の練習時間中、競技ラウンドと競技ラウンドの間にのみ許される。

ゲーム中にボウリングボールの表面を加工してはならない。ゲーム中にボール表面を調整した場合、そのゲームはゼロピンとする。

2.11 アプローチの表面を損なってはならない

2.11.1 他の競技者が通常のコンディションを得られなくなるような異物はアプローチのどの部分にも使用することを禁止する。

2.11.2 このことにはタルカムパウダー、軽石、靴底の樹脂なども含むが、これらに限定されるものではない；またアプローチに付着するような柔らかいゴム製の靴底やヒールは禁止とする。

2.12 スコアリングの間違い

2.12.1 スコアリングの間違いや、計算の間違いは発見次第、担当トーナメント役員によって直ちに訂正されるものとする。疑わしい間違いは、指定された役員によって解決されるものとする。

- 2.12.2 スコアリングの間違いに関する抗議を提出する期限は、トーナメントの各日のその種目またはゲームのブロック終了後1時間までとする。ただし、表彰式または次のラウンド（エリミネーション種目の場合）の、どちらか早いほうの開始前までであるとする。
- 2.12.3 この規定のもとでのそれぞれの抗議はその件自体に特定されたものであるとし、この規定が以前のあるいは同様の違反に及ぶと解釈することはできない。

2.13 追加トーナメント情報

- 2.13.1 トーナメントは競技者が1ゲーム及び/又はブロックや何シリーズかの中で行なうことのできるリセットの回数を制限する規定を設けることができる。
- 2.13.2 トーナメントは遅刻した競技者に関する規定を設けることができる。
- 2.13.3 トーナメントは競技者による不公正な策略に関する規定を設けることができる。
- 2.13.4 トーナメントマネジメントは規定の施行と違反があった場合の罰則の規定を作るものとする。

3 . W T B A 公認国際トーナメント

3.1 前書き

- 3.1.1 この章にはW T B Aによって公認あるいは承認されたトーナメントに適用される条件と手続きが書かれている。
- 3.1.2 トーナメントのW T B A公認とは、W T B A加盟連盟の個人会員である選手が参加できるということである。
- 3.1.3 勝者が世界チャンピオン、世界テンピンチャンピオン、世界ボウリングチャンピオンと称されることになるような名称を持つトーナメントに

は公認は与えられない。加盟連盟はそのような名称を使用するトーナメントにその会員が参加することを許してはならない。

3.1.4 3.3条 – 3.10条 はW T B A公認トーナメントにのみ適用される。

3.2 トーナメントの定義

3.2.1 W T B A 公認トーナメント

- a) W T B A 公認トーナメントは2つ以上のゾーンの連盟からの選手が参加できる。
- b) W T B A公認トーナメントは、W T B Aの公認が与えられない場合、そのトーナメントが開催されているゾーン外の選手は参加できない。
- c) トーナメントがW T B A公認を得るためには、予めそのトーナメントが行われる国内競技連盟とその国内競技連盟の属するゾーンの公認を受ける必要がある。

3.3 参加資格

3.3.1 トーナメントの参加選手は各々の国内競技連盟による承認を受けなければならない。その連盟はF I Qによる資格停止中であってはならない。

3.3.2 選手はW T B A加盟連盟による資格停止処分中であってはならない。

3.7 義務と責任

3.7.1 以下のことがらは選手の責任とする

- a) トーナメントに登録する前にそのトーナメントが正式に公認されたものであることを確かめる。
- b) 非公認トーナメントに登録した場合に適用される罰則を認識する。
- c) 国内競技連盟発行の有効な免許証か認定証の形で、本人確認証明書を提示できる。

3.7.2 以下のことからトーナメント主催者の責任とする

- a) 関連するゾーンのトーナメント申請用紙を記入し提出する。
- b) 3.5.4 条に述べられたすべての条件が満たされることを保証する。
- c) 少なくとも、以下の情報をトーナメントのインビテーション/告知の中に公開する。
 - トーナメントの名称
 - トーナメントの日程
 - 住所
 - 種目
 - 最終参加登録日
 - 参加登録料
 - 賞金
 - 賞
 - 工業規格
 - トーナメント規定
- d) 適切な医療と応急処置の準備の条項を作る
- e) トーナメントに登録した全選手の本人確認
- f) 参加資格の条件が満たされていることの確認をする
- g) 競技規定が守られていることの確認
- h) トーナメント終了後遅くとも1週間以内にトーナメントリザルトの完全リストの公開

3.7.3 次のことから国内競技連盟の責任とする

- a) ゾーントーナメント申請の手続きをし、すべての条件が満たされていることを確認する
- b) トーナメントマネージャーが規定と義務について十分な知識を備えていることを確認する
- c) トーナメントに関して問題が生じたときにゾーンおよびW T B A にその問題にどのように対処したかを説明する報告書を提出する

3.7.4 次のことからゾーンの責任とする

- a) 国内競技連盟からのゾーントーナメント申請を受理して2週間以内に手続きをする
- b) トーナメントのゾーン公認から2週間以内にゾーンウェブサイトのトーナメントカレンダーを更新する
- c) 国内競技連盟および/またはW T B A からトーナメントインフォメーションの修正を受け取ったときはゾーンウェブサイトのトーナ

メントカレンダーを更新する

- d) 主催者が公認トーナメントの条件に従っていないことが分かったら、国内競技連盟に知らせて、選手たちにそのトーナメントに参加しないように連絡させる
- e) ゾーンは主催者が予め条件を満たしていない場合は、トーナメントの公認を拒否する権利を有する

3.7.5 以下のことからWTBAの責任とする

- a) ゾーンからのトーナメント申請を受理して2週間以内に手続きをする。
- b) トーナメントがWTBAに公認されたときは、ゾーン、国内競技連盟、主催者に連絡する。
- c) 主催者が公認トーナメントの条件を守っていないことが分かったら、国内競技連盟に知らせて、選手たちにそのトーナメントに参加しないように連絡させる。
- d) WTBAは主催者が予め条件を満たしていない場合は、トーナメントの公認を拒否する権利を有する。
- e) トーナメントのWTBA公認は、何らかの財政的紛争や賠償請求が起こったときにWTBAがその法的責任を有することを意味しない。

3.8 罰 則

- 3.8.1 規定を守らなかった選手は権限を有するトーナメント役員により、最初の違反にはイエローカードで警告を受ける（罰則なし）。
- 3.8.2 同じトーナメントでの2回目の違反に対しては、選手はそのトーナメントは失格とし、かつ90日間WTBAまたはゾーンのトーナメント/選手権大会への参加を許されない。
- 3.8.3 すべての違反は、その後の処置のためにトーナメントマネージャーによって直ちにWTBA事務総長に報告されるものとする。
- 3.8.4 ここに述べられたように公認を要するのに公認を受けていないトーナメントに参加する選手は、WTBAおよび/またはその選手の国内競技連盟によって与えられる罰則（例えば決められた期間トーナメントに参加禁止）を受けるものとする。

3.9 抗議

- 3.9.1 参加資格または一般競技規定に関する抗議は、その違反が生じたゲームの終了後24時間以内または授章式のどちらか早いほうに来るまでに責任のあるトーナメント役員に書面で届け出、承認を受けるものとする。
- 3.9.2 ファウルまたはピンフォールの適法性に関する抗議が提出された場合、その抗議に関して証拠が採用されるときに、関係者（団体）の公式代表が立ち合うことができる。

3.10 提訴の手順

- 3.10.1 トーナメントマネージャーの決定に関する提訴は、1週間以内にそのトーナメントの行われた地を管轄する国内競技連盟に送られるものとする。
- 3.10.2 その国内競技連盟は2週間以内にその提訴を検討し、自らの決定を下す。決定のコピーを提訴人、その連盟の属するゾーン、WTBAに送付するものとする。
- 3.10.3 その決定への提訴は2週間以内にWTBA幹部会に送られるものとし、その決定は最終決定とする。提訴人、国内競技連盟、その連盟の属するゾーンには、30日以内にWTBAからその決定が告知されるものとする。

4 . 世界選手権大会、主要規定

4.1 前書き

- 4.1.1 以下の主要規定はWTBA選手権大会に適用する；ただし、同様の手順がゾーン選手権大会の運営に関してゾーンによって踏襲されるものとする。

- 4.1.2 5 - 8 章は、これら主要規定に加えて各選手権大会に特定した規定を扱う。
- 4.1.3 WTBA は公表されている規定及び規範に従って WTBA 選手権大会を運営するものとする。

4.4 設備・用具

- 4.4.1 選手権大会に使用される全ての設備・用具は9、10、11章に規定されている条件に適合しなければならない。

4.10 ボウリングボール手順

- 4.10.1 USBC 公認ボールリストに記載された、1991年1月1日以降製造されたボウリングボールのみが公認されたWTBA競技会で使用することができる。
オンラインリストはWTBAウェブサイト
www.worldtenpinbowling.com に掲載されている。
オンラインボールリストが1991年1月1日に創設されたとするリストに載っておらずしかも1991年1月1日より前に製造されたことが証明されたボウリングボールはそれ以前に承認済みである。
USBC 公認ボールリストの全プリントをボール登録用デスクにおいて利用できるようにしておくものとする。
USBC ボールリストの開始以前に製造されたボールの競技会での使用許可はトーナメント委員会の裁量に委ねる。
- 4.10.2 ボウリングボールの表面加工は2.10.1項によって許される。
ステップラダーファイナルフォーマット中は、各マッチが競技ラウンドとみなされる。
- 4.10.3 競技で使用されるボールはすべて検査し、文書に記録するものとする。
検査は a) ボールの適格・非適格 b) シリアルナンバー c) 重量及びバランス d) ボールの数 に限定する
- 4.10.4 公式練習終了直後に選手権大会のイベント中使用するボウリングボールの登録が行なわれるものとする。各選手ともトーナメント中最大6個のボウリングボールを登録することができる。競技者のボウリングボー

ルリストへの追加は、それらが上記 4.10.3 に合格していれば(最大 6 個まで)許される。非常に特別な状況においては、トーナメントテクニカル委員会は登録済みのボウリングボールの入れ換えを許すことができる。競技者のボール登録リストへの追加はスクワッドの開始 1 時間前までにを行うものとする。

- 4.10.5 毎日、いくつかの種目中に、ボウリングボールの抜き打ち検査を行うものとする。トーナメントテクニカル委員会がボール数と競技者を決定するが競技者は無作為に選ぶものとする。この検査はシリアルナンバーと何らかの改造の有無に限定するものとする。
- 4.10.6 この規定の違反に対する罰則は a) 毎日の抜き打ち検査、検査が行われたイベントのスコアゼロ b) メダル獲得者、そのイベントのスコアゼロ c) マスターズファイナル、失格及び全スコア無効、没収とする。
- 4.10.7 グリッピング用のホールは 1 つのボウリングボールに最大 5 つまで許される。競技者はサムホールを使用した状態で、各セットのフィンガーホールに指が届かなければならない(必ずしも 4 つ同時にでなくてもよい)。指の届かないホールはすべてバランスホールとみなされる。フィンガーホールの 1 セットがフィンガーチップグリップ用でもう 1 セットがコンベンショナルグリップ用である場合、そのボールはバランスを 2 回測らなければならない。
- 4.10.8 投球中、選手は親指をサムホールの中に入れるかその上に置いておかなければならない。親指がサムホールから 180 度離れていてはならない。

4.15 喫煙と飲酒

- 4.15.1 選手は競技中すなわちブロックのゲーム全体を通じて、タバコ製品を使用したり飲酒あるいはアルコールの影響を受けていたりしてはならない。選手がこの規定に違反していることがはっきりした場合にはトーナメントテクニカル委員会は、その選手をそのとき競技していたゲームのブロックの間、参加停止にすることができる。
- 4.15.2 非アルコール性飲料はプレーヤーズエリアで飲まれるのでなければ構わない。

- 4.15.3 選手権大会中、プレーヤーズエリアで酒類が提供されたり飲酒が行われたりしてはならない。
- 4.15.4 選手権大会中、ボウリングセンター内では喫煙は許されない。ただし、プレーヤーズエリアや観客エリアの環境に影響を与えないならば、閉め切った場所の中では許される。
- 4.15.5 競技者がゲーム中に喫煙しているところを発見された場合は、その競技者はその時競技中のゲームゼロピンとする。ゲームとゲームの間に喫煙しているところを発見された場合は、その競技者はそのあとのゲームゼロピンとする。

4.17 競技形式

4.17.1 マッチプレースタイル

- a) マッチプレー方式では各選手1度に2フレーム投球する。
- b) ただし、左側レーン（奇数番号レーン）でスタートする選手は1フレームだけ投球する。
- c) その後、両選手とも最初に右側レーンで投球し、その後続けて左側レーンでもう1フレーム投球する。
- d) 先に投球を始めた選手は第10フレームを右側レーンで投球して自分のゲームを終了する。
- e) マッチプレーが2ゲーム以上からなる場合は、次のゲームでは選手は左側レーンでスタートする方を交代する。

4.17.3 ラウンドロビン方式

- a) ラウンドロビンにおいては、この種目の予選方式によりラウンドロビン競技に進出する選手の人数が決まる。
- b) 各選手とも他のすべての選手と1マッチを行う。
- c) マッチは1つまたはそれ以上のゲームからなる。
- d) ファイナルポジションラウンドマッチを加えることもできる。ポジションラウンドの組み合わせは、選手がそれまでのマッチを終了したときの順位によって決定される。
- e) ポジションラウンドの前までの2 3位、4 5位、6 7位などにタイが生じた場合は、ラウンドロビンにおける次の選手を上位とする
 - スクラッチのトータルピンの多い方

- 直接対戦を勝った方
- 勝ちマッチ数の多い方
- ロウ・ハイゲーム差が少ない方
- ハイゲームの高い方

4.18 公式スコア記録

- 4.18.1 トーナメントには大会で投球されるすべてのゲームを記録する公式スコア記録員を置かなければならない。
- 4.18.2 W T B Aによって公認済みの自動スコアリング装置を使用することができる。この装置は、フレームごとにスコアを確認できるスコアシートを印刷できるものでなければならず、それができない場合はトーナメントのスコアリング及び競技の規定に従うものとする。
- 4.18.3 フレームごとの確認ができるように、1投ごとの点数を示す手書きの（印刷の）スコアシートを取っておかなければならない。各選手個人、コーチ、チームマネージャーは投球されたスコアのコピーを受け取り、スコアを確認するために投球の後すぐに公式コピーに署名をするものとする。
- 4.18.4 スコアが記録されたあとはスコアリングや計算に明らかな誤りがない限りそれを変更することはできない。明らかな誤りは発見され次第トーナメント役員によって訂正されるものとする。誤りかどうか疑わしいときはレフリーによって裁決されるものとする。
- 4.18.5 スコアリングの過程で失われて復元できないトーナメントのゲーム、あるいはゲーム内のフレームはトーナメントマネージメントの承認を受けて再投球することができる。

4.19 ファウル判定

- 4.19.1 トーナメントマネージメントはW T B A公認のオートマティックファウル判定機を採用、使用することができる。
- 4.19.2 それが利用できないときは、ファウル判定員をファウルラインが障害物なく見渡せる場所に配置するものとする。

- 4.19.3 ファウル判定機が一時的に働かなくなったときは、トーナメント役員はファウル判定員を配置するか公式スコアラーにファウルを宣告する権限を与えるものとする。

4.20 中断されたゲーム

- 4.20.1 競技を開始したレーンの設備の故障のため、シリーズの通常の進行が遅れる場合には、トーナメント役員は他の一対のレーンでゲーム及びシリーズを終了させる権限をもつ。

4.21 スローボウリング

- 4.21.1 アプローチに進み投球の準備をしている競技者には次の権利と義務がある
- 左隣のレーンで、アプローチに進みつつある競技者と投球の準備をしている競技者にのみ優先権を主張できる。
 - 右隣のレーンでアプローチに進みつつある競技者と投球の準備をしている競技者には優先権を譲るものとする。
 - 競技者は自分の順番になったときは投球の準備をし、左右両隣のレーンがともに空いたら、遅れずにアプローチや投球を開始しなければならない。
- 4.21.2 競技者が 4.21.1 の段落に説明された手順を守らない場合はスローボウリングと解釈される。これらの手順を守らない競技者は権限のあるトーナメント役員によって次のように警告されるものとする
- 1 回目の違反に対してはホワイトカード（罰則なし）。
 - 2 回目の違反に対してはイエローカード（罰則なし）。
 - 3 回目及びゲームのブロック内（シングルス、ダブルスに対しては 6 ゲーム、トリオ、5 人チーム戦及び 1 日の内のマッチプレーのゲームすべてに対しては 3 ゲーム）における 4 回目以降の違反に対してはレッドカード。罰則はそのフレーム零点。
- 4.21.3 この規定の施行を誤らないように、レフリーはシングルス、ダブルス、マスターズ戦においてはいちばん早いチームから 4 フレーム以上、トリオ、5 人チーム戦においては 2 フレーム以上遅れているチームを特に監視するものとする。ただし、両端の 2 対のレーンは除く。ベーカー方式の

競技ではシングルスと同じ規定が適用されるものとする。

- 4.21.4 マスターズグランドファイナルにおける、この規定の執行あるいは執行されなかったことに関して何か疑問が生じたときは、レフリーではなく、WTBA会長またはその指名代理人が最終決定を下すものとする。

4.22 間違っただレーンでのボウリング

- 4.22.1 1人の競技者が自分の投球順ごとに2フレームずつ投球するシングルスマッチプレー競技において、もう1人の選手が間違っただレーンで投球したときは、相手選手が投球する前にそれが発見された場合にはデッドボールが宣告され、その競技者は正しいレーンで再投球するものとする。
- 4.22.2 そうでない場合には、スコアは投球されたものとして成立し、そのゲームの以後すべてのフレームは正しいレーンで投球されるものとする。

4.23 遅刻した選手

- 4.23.1 遅刻した選手やチームは自分(たち)が配置されたレーンでそのとき投球されているフレームから始まるスコア計算で競技を開始するものとする。
- 4.23.2 1人(1チーム)しか配置されていない場合は、そのスクワッドでそのとき投球されているいちばん進んだフレームから開始するものとする。

4.25 抗議

- 4.25.1 参加資格または一般競技規定に関する抗議は、その違反が生じたゲームの終了後24時間以内または授章式のどちらか早いほうに来るまでに責任のあるトーナメント役員に書面で届け出、承認を受けるものとする。
- 4.25.2 ファウルまたは倒されたピンの適法性に関する抗議が提出された場合、その抗議に関して証拠が採用されるときに、関係する連盟の公式代表が立ち合うことができる。
- 4.25.3 上記の期限までに抗議が書面で提出されないときは、その1つのまたは複数のゲームは投球されたものとして成立する。

4.25.4 この規定のもとでのそれぞれの規定は同様のあるいは以前の違反に当てはまるものと解釈してはならない。

4.26 提訴の手順

4.26.1 レフリーによって解決することのできない事柄はすべてトーナメントテクニカル委員会によって聴聞を受け再検討されることとする。トーナメントテクニカル委員会の決定は、その決定が発表されてから24時間以内、または表彰式が始まる前のうち、どちらか早いほうがまでにジュリー オブ アピールに提訴がなければ最終決定となる。

4.26.2 選手権大会終了後に起こった資格に関する抗議は30日以内に直接ジュリー オブ アピールに提出するものとする。

4.26.3 トーナメントテクニカル委員会の決定から生じる提訴はすべて、レフリーかジュリー オブ アピールのメンバー、あるいはWTBAまたはゾーンの事務総長に書面で提出するものとする。それぞれの提訴は個別のものであるとし、100 USドルの料金を伴うものとする。ジュリー オブ アピールがその提訴を支持しない場合は、その料金はWTBAに没収される。上記はまたジュリー オブ アピールに直接提出された抗議にも当てはまるものとする。

4.26.4 ジュリー オブ アピールは定期的に会合を組み、提訴に関係するすべての書類や人物の提出や出頭を命じたり、召喚をしたりする権限をもつ。あるいは適当と思われる場合には、ジュリー オブ アピールのメンバーのそれぞれがこの件に関するすべての資料を研究したあとに、メール投票でその問題を裁決することができる。